

龍谷

Ryukoku

2020 No.90



CONTENTS

01 P01
Feature Article 巻頭特集 学長対談
今、必要なのは『針と糸』
レシャード・カレッドさん × 入澤 崇 学長

02 P06
Ryukoku 基本構想 400 News
第1期中期計画 始動

03 P08
Special Support Initiative
[COVID-19]
学生の「いのち」を守る
誰一人取り残さない

04 P12
People, Unlimited
「国際交流をあきらめないで」
グローバルサポーター始動
遠藤 京平 さん 文学部

P14
People, Unlimited
大所帯の音と人を支える
吹奏楽部初の女性リーダー
村上 凜 さん 社会学部

P16
People, Unlimited
暮らして学ぶ
新たなコミュニティデザイン
柴田 悠矢 さん 政策学部

05 P18
Education, Unlimited
オンライン授業
授業改善のきっかけに
藤田 和弘 教授 先端理工学部

P22
Education, Unlimited
オンラインで取り戻せ
失われたキャンパスライフ
河合 沙織 准教授 国際学部
林 則仁 准教授 国際学部

06 P26
Special Article 特別企画
幻の「ラジオ体操第3」で
おうち時間に健康増進を
安西 将也 教授 社会学部

07 P30
World, Unlimited
グローバルな学術交流で
日本の犯罪学を国際水準に
ディビッド・ブルースター さん
犯罪学研究センター 博士研究員
浜井 浩一 教授 法学部
犯罪学研究センター 国際部門長

08 P34
Event Ryukoku Museum
身近な商店街でお宝発掘
庶民の信仰を伝えてきた文化財
村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員

09 P36
People, Unlimited 龍谷人
正解が一つでないから
演出の仕事は面白い
大原 拓 さん
NHK 制作局 第4制作ユニット ドラマ

P38
People, Unlimited 龍谷人
人と繋がり、寄り添い、
保育の課題解決に尽力
松尾 実可子 さん
ひかりのくに株式会社

P40
People, Unlimited 龍谷人
失敗を恐れず、自ら動き、
人、店を成功へ導く
植月 剛 さん
イートアンド株式会社

10 P42
News & Topics
最新情報

11 P46
Book Café
新刊紹介

01 | Feature Article

巻頭特集 学長対談

今、必要なのは 『針と糸』

医師

レシャード・カレッド

×

龍谷大学学長

入澤 崇



Feature Article

People Unlimited

Education Unlimited

World Unlimited

People Unlimited 龍谷人

News & Topics



レシャード・カレド 1950年アフガニスタン生まれ。1969年に来日。千葉大学留学生部を経て、1972年京都大学医学部に編入。1986年日本国籍を取得。専門は呼吸器疾患。1993年静岡県島田市にレシャード医院を開業。地域医療に貢献する傍ら、バキスタンやアフガニスタンの難民キャンプで医療奉仕活動が続ける。1996年毎日国際交流賞受賞。老人保健施設アボロン理事長。京大医学部臨床教授。島田市医師会会長。NGOカレーズの会を立ち上げ、政府や赤十字、JICA依頼の活動もおこなう。著書「知ってほしいアフガニスタン：戦禍はなぜ止まないか」

自らを『医療人』と呼ぶ、アフガニスタン人医師レシャード・カレドさん。50年前に来日、日本で医師となり、80年代からアフガニスタン難民キャンプなどに出向く。今回「人を大切に」をテーマに、現代社会に今、必要なものについて入澤学長と対談がおこなわれた。

入澤:先生にお会いするという夢がやっとかないました。先生に今一番お尋ねしたいことは、世界中が大変な状態になっているコロナへの対応、そしてその後、世界はどうあるべきかをお聞きしたいのですが。

レシャード:コロナ問題は、一つの病気として捉えるものではなくて、社会問題として捉えるべきです。コロナに限らずに、世界ではいろいろな感染症が起こっていますが、この異常な傾向は人間が長い歴史のなかでつくりあげてしまった一つの産物であるという事実。逆に、医療や予防によって感染症を減らすことや抗生剤などの投与によって抵抗力が弱体化し、感染症に弱い人間をつくりあげてしまったのも事実です。免疫が対応できないものができてしまう。まさにコロナがそういう形なんですね。コロナこそが神様が人間に与えた試練ではないでしょうか。「あまりにも好きにすぎたんじゃないか。これまで育ててきたおたがいさまの気持ちを大事にしろ」と。「もう一度足元を見て、何をすればいいか考えなさい」と。

入澤:おっしゃるとおりで、コロナは文明の病、根源的なことを問わないといけない。仏教では利益衆生(りやくしゅじょう)という言葉がありますが、現代社会を見ると、自分の利益、自国の国益、それを第一に掲げるものだから紛争になる。コロナの後を考えると、コロナの前に戻すのではなく、考え方を改めないと、また同じことを繰り返すだけだと思っんです。

レシャード:私は医者『医療人』と言います。病気を治すのは医者だけではない、看護師も介護士もそう、全員で『医療人』なんです。病気を医者が治せるのは3割、7割は他の人たちががんばってくれているから。医者が処方箋を書いてそれで治っているとと思ったら大きな間違い。私は患者さんに「病気は嫌うな、病気と仲良く生きていこう、病気と喧嘩したら負けるに決まっている」と言っています。それが運命であり、一つの宿命なんです。人間は、自然を自然のまま受け入れないとダメなんですよ。病気であり、そして死というのは避けられないものなんです。死から逃げようとしている人間というのは全く無防備な人間で、全く非常識なことをやろうとしています。宗教と科学・医学はどこかで同じ方向性を持たないとダメなんです。少し話は変わりますが、子どものいじめ問題、それはなにかが原因かという、子どもたちが家のなかで死を見ないからです。辛いということを自分が経験すれば、人をいじめることがどれほど辛いものかを実感するんですね。それを知らない子どもたちが、平気で人をいじめ、平気で人を苦しめます。

入澤:日本の公教育は、死を直視するということは教えないんですよ。避けるんです。私は死を遠ざけたということが、日本の教育を最もおかしくしてしまった要因ではないかと思っています。

レシャード:残念なのは病気以外で亡くなっている人が世界中にたくさんいる。テロだったり、戦争だったり。ゆるせないのは戦争を起こさないと経済的に破綻してしまうという国がある。人の命で商売している。人の命まで奪って自分たちが繁栄するという発想自体があってはならないことなんです。



入澤 崇 いりさわ たかし 龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

入澤:命の大切さ、どうしたら格差をなくせるのか、生きていく上で本当に大切なことはなんなのか。宗教・文化・民族の違いを乗り越えて、語れる場を作ろうと考えています。そのときいつも思い出すのが、レシャード先生の本の中で紹介されている『ハサミではなくて針と糸』というお父様の詩です。これを先生から紹介していただけますか。

レシャード:アフガニстанは、50以上の民族が住んでいるシルクロードの交差点になります。人が行き来し、集り、そこに住み着き、経済的に発展し、独特の文化が生まれました。「旅人は神のごとくもてなせ」がイスラムのしきたりで、お客さんを大事にする。自分たちが食べなくてもお客さんに食事を出す。お互い様というか分かち合うという気持ちが一つのイスラムの文化なんです。その食べものは神様が先に君に渡してあるものだから、君は他の人たちに与えて返すんだよ、ということなんです。私が小学生のときのアフガニстанは、一面チューリップが咲いている美しいところでしたが、長い間の戦争や侵略で大きく変わりました。父は見るに忍びなく、もう少しまともに生きようよ、お互いに大事にしようよ、という話をいつもしていました。

父の詩というのは「昔、キャラバン隊が立ち寄った土地の王様に、大変切れやすいハサミを手土産として渡しました。王様がとまどった顔をするので、お気に召しませんかと聞くと、ハサミというのはモノを切るものであり、裂くものです。あなたたちとの友情を深めようと思えば、これは受け取れないよ。いま我々がほしいものは人と人をつなぎ合わせる針と糸なんです」というのが詩の中身なんです。父は、この話の後に「今のアフガニстанに必要なのはこの針と糸。寄り合い、大切にするという心を取り戻すことではないでしょうか」と言

いました。人はハサミになってはいけない、人と人の心をつなぎ合わせる針と糸が必要なのではないかと言いたかったのですね。

入澤:先進諸国が軍事費には膨大なお金をつける、まさにハサミをね。分断がどんどん進む世の中になりつつあるところに、コロナの問題が起きました。ハサミではなくて針と糸、国と国をつなぐ、もっと底辺には人と人との心をつなぐこと。これがなんとしても必要だと思います。このお話は、アフガニстанだけでなく、今の現代社会、世界に必要なものです。ルートを行き交った人たちの交流の歴史というものをもう一度見つめ直すときじゃないかなと思うんです。

レシャード:それが一番大事なところで、人は人を必要としているんですよ、一人孤独では生きていけないものなんです。私は日本語で「おたがいさま」と「おかげさま」という言葉が大好きで、おかげさまというのは自分一人ではできない、常々支えられてこそできている。そしておたがいさまというのは、私もあなたも同じ立ち位置であるということ。私が自分のために思うことはあなたのためにも考えてあげるといって、そういうことが文化の一つであって、重要な部分なんです。

入澤:そういう日本文化の良さというのをもっと世界の人たちに知ってもらいたいですね。本日はありがとうございました。あこがれの先生にお会いできて光栄です。最後に先生から学生たちにメッセージをお願いします。

レシャード:必要なのは関心を持つということ、関心を持たなければ物事に見向きもしないし、勉強もしない、関心を持つというのが第一歩なんです。そこから物事が始まるのです。

02 | Ryukoku 基本構想 400 News

第1期中期計画 始動

あるべき姿からのアプローチ

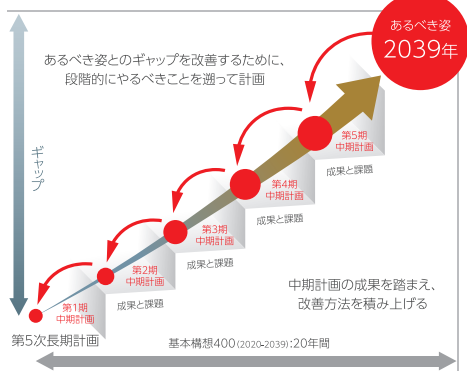
本年度から始動した「龍谷大学基本構想400」(以下、「構想400」という)は、2020年度から2039年度までの20年間を期間とする全学的な計画です。これは、これから先の未来が予測困難で不確実性がますます高まる状況にあるからこそ、遠い将来のあるべき姿をはじめに定め、そこに1期4年間の中期計画を5期にわたって展開するものです。

最初に取り組む第1期中期計画(2020～2023年度)では、合計40のアクションプランを掲げており、これらを順次展開し、教育改革をはじめとした大学改革に邁進いたします。

その推進にあたっては、常に外部環境や社会動向などの変化について分析・検証し

ながら改善を図るとともに、急激な環境変化などによって生じた新たな課題に対しても時機を逸することなく対応できるよう体制を構築します。

バックキャストによる計画アプローチ





国内外から評価される魅力ある大学へ —外部指標を活用した大学改革—

構想400では、2039年度における本学のあるべき姿として「『まごころ～Magokoro～』ある市民を育み、新たな知と価値の創造を図ることで、あらゆる『壁』や『違い』を乗り越え、世界の平和に寄与するプラットフォームとなる」ことを掲げました。

そのKGI^{※1}定量目標値として、THE世界大学ランキングの順位を設定^{※2}しました。大学ランキングそれ自体を目的とするものではなく、教育力、研究力、ガバナンスの面で全学的な国際化を促進し、世界水準の組織へ転換することを通じ、結果として上位に位置づけられることをめざすものです。

なお、最新の結果としては、THE世界大学ランキング日本版2020において、本学は私立大学総合31位(昨年度:49位)に位置づけました。

これは主として、国際性、教育リソースの分野でスコアが向上したことによるもので、今後、アクションプランとして掲げる諸改革を着実に実行することで、更にグローバル化への対応を進めるとともに、学生がより成長実感を得られる教育の展開を図っていきます。

※1 Key Goal Indicator の略、重要目標達成指標

※2 日本版で上位 5% 以内相当、世界版で上位 3% 以内相当、国内の私立大学で上位 10 位以内にランクインする

03 | Special Support Initiative [COVID-19]

学生の「いのち」を守る 誰一人取り残さない

龍谷大学における新型コロナウイルス感染症を踏まえた学生支援方策

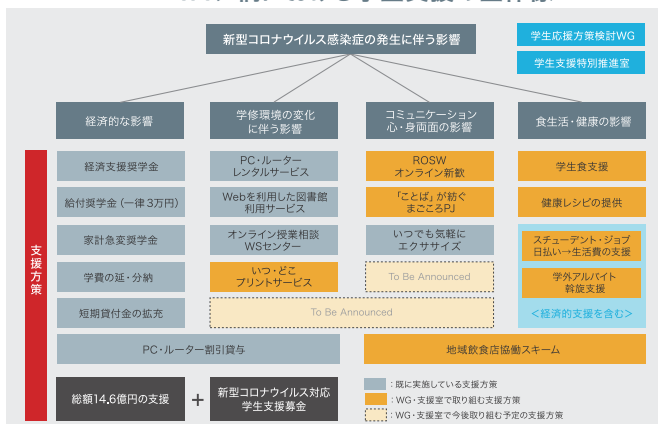
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、他大学と同様、龍谷大学でも入学式、新入生歓迎行事などが中止となり、前期の授業がすべてオンラインになりました。在学生にとっても初めての出来事であり、特に新入生は、大学に登校すらできない、不安だらけの大学生活を迎えることになりました。

このような状況下、龍谷大学では、4月初旬、速やかに危機対策本部を設置し「学生応援方策検討ワーキング」を立ち上げました。4月下旬には全学生に対し緊急アンケートを実施。その結果から、一人暮らしの学生や留学生で、切り詰めた食生活に対する、健康面への不安が最上位にあることがわかりました。

同時に、SNSを通じて発信される学生からの数々の悲鳴を目の当たりにして、今般のコロナ禍が学生生活に与える一大事に気づき、何よりも学生の「いのち」をつなぐことを最優先に学生支援方策に取り組むこととし、生鮮食品の提供など、学生食支援活動から開始しました。

並行して、新歓イベントがなかった新入生に対する代替措置としてオンライン新歓イベント「ROSW」に取り組むとともに、自宅近辺のコンビニエンスストアで教材を無料で印刷できる「いつでもこ・プリントサービス」、教職員が有する未使用の年賀状や書き損じハガキなどを再活用したコミュニケーション支援「『ことば』が紡ぐまごころPJ」などを展開してきました。

コロナ禍における学生支援の全体像



新型コロナウイルス感染症対応 学生応援特設サイト https://www.ryukoku.ac.jp/ma556_5en/





Special Support Initiative [COVID-19] ①

緊急支援措置として一番に始めた「食支援プロジェクト」

一人暮らしの学生や留学生への緊急支援措置として、教職員や卒業生からの寄付金を基に「学生支援募金」を創設。5月初めから週2回、学生への食材を配布する『学生食支援プロジェクト』を開始しました。全キャンパスあわせて、当初、一日あたり500人分相当の昼・夕食の食材1週間分を用意。供給する食材については、本学の連携する協定自治体や農学部の資源を活用して調達。また、配布作業には、アルバイト収入が減少した学生に委託し、雇用創出にもつなげました(当初は緊急として無償、国の緊急事態宣言解除後は同じ内容を1,000円で提供)。

その後、本学の食材支援の趣旨に共感した多くの企業や団体、個人の方から、無償での食材提供が相次ぎ、支援の輪が広がっていきました。

最終的に深草・大宮・瀬田の3キャンパス合計で、延べ25回、延べ6,000名近くの学生へ、合計約52,500食分の食支援を実施しました。スチューデント・ジョブでは、延べ約35回、約500勤務、実数として約200名の学生を直接雇用し、食支援の活動を担っていた

だくとともに、日払いで手当てを支給することで、経済面から日々の生活支援に取り組みました。



Special Support Initiative [COVID-19] ②

深草キャンパス周辺の地域活性化をめざし、飲食店で利用できる「学生・地域応援食事クーポン」配付

2020年8月の1ヶ月間、深草キャンパス近隣の提携飲食店でクーポンを渡すと食事代が値引きされる『学生・地域応援食事クーポン』を配布しました。これは短期大学部社会福祉学科が大学の食支援プロジェクトと連携して実施しており、コロナ禍の人々の生活に及ぼす影響を、学生の立場、地域社会の状況などから、複眼的な視点で学ぶことを目的としたプロジェクトです。

Special Support Initiative [COVID-19] ③

Ryukoku Online Start-up Week (ROSW) 開催 (5月9～16日)

新入生にとっては、初めての大学生活であるのに、キャンパスへ登校できない、同級生や先輩、教職員にも会えない、大学に入学したという実感も喜びも得られない、そんな状況がありました。在生も、友人との交流ができず、新入生をサポートしたくとも満足にできませんでした。

このような状況のなか、オンライン上で「無いことばかりの春だけど、少しでも皆さんと一緒に大学を楽しみたい」という趣旨で、新入生を全学あげて歓迎し、キャンパスを共有する『Ryukoku Online Start-up Week (ROSW)』を開催しました。

学部別で新入生と在生が交流するキャンパス相談交流会、授業の悩み相談、サークル紹介、ふるさとの先輩後輩の交流、コロナ収束後の大学生活について語り合うワーク

ショップイベントなどのコンテンツを揃え展開しました。初日の参加者は1500名を超え、入澤学長は生中継で在生、新入生に対してエールを送りました。

「#ROSW」は、SNSで龍谷大学生のローカルハッシュタグとして普及し、新入生同士が同級生を見つけ、つながる手段として活用されるようになり、Twitter上で近畿地方のトレンドに入るほど話題となりました。



Special Support Initiative [COVID-19] ④

コンビニエンスストアで無料印刷ができる

一人暮らしの学生をはじめ、自宅にプリンターがないために、オンライン授業の受講や課題などに支障が生じている学生に対して、日本全国の主要コンビニエンスストアで、講義資料などを無料で印刷できるプリントサービス『いつ・どこ・プリント』を6月からはじめました。

学生に本サービスにおけるIDを付与し、プリントサービスにかかる全費用を本学が負担します。サービス期間は6月中旬から2021年3月末までの予定です。

本学はオンライン授業の実施に伴い、不慣

「いつ・どこ・プリント」で学生を支援

れな学修や不自由な学生生活を強いられる学生を支援するために、新たな給付奨学金制度の創設や、情報環境が準備できない学生に向けて、ノートパソコン、Wi-Fiルーターのレンタルなどを提供しました。しかし、オンライン授業であるがゆえに、通常であれば無料で配布される授業教材やキャンパスに登校できればプリントできる資料が、印刷環境がない学生にはプリントできない状況となりました。そんな学生の自己負担をなくすためにはじめたのが「いつ・どこ・プリント」です。

Special Support Initiative [COVID-19] ⑤

「ことば」が紡ぐまごころプロジェクト

辛いのは学生だけではなく家族も同じ。学生一人ひとりが保護者や近親者など、ご縁のある方々へ、日頃の感謝の気持ちをハガキで送り届け、言葉を通じて「まごころ」を紡いでいく『「ことば」が紡ぐまごころプロジェクト』を展開しています。(教職員の寄付による書き損じのハガキや古い年賀ハガキを再利用)

「学生と周囲の方とのコミュニケーションをつなぐハガキ」。たった一枚のことですが、そのハガキに込められた言葉は「まごころ～Magokoro～」として、学生を思う周囲の方々に伝わり、確かなつながりとなって、お互いが今の苦境に耐え、辛くても前に向かって生きていこうという大きな勇気を与えるのではないかと考えました。このような時だからこそ今の気持ちを、ハガキで伝えてみる。書くことで



自分を見つめ直すきっかけになったり、誰かを励ますことができたり、感謝の思いを伝えたり、手紙の持つチカラで、少しでも学生に元気を届けられたらという思いで取り組んでいます。

このことで、学生自身にも周囲に生かされて生きている自分を感じて日々生きて欲しいと思います。

「新型コロナウイルス対応 学生支援募金」へのご支援のお願い

本学では「誰一人取り残さない」の精神に基づき、学生の皆さまの実情に応じて、校友会・卒業生、親和会・保護者の皆さまからの多大なご支援のもと、様々な支援活動を実施しております。今後も、この取り組みを継続して実施するため、皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(1) 募金の名称

新型コロナウイルス対応 学生支援募金

(2) 募金の目的及び使途

新型コロナウイルス感染拡大に伴う各種学生支援の充実のため

ご寄付に関するお問い合わせ先

龍谷大学 経理課 TEL 075-645-7876

<https://www.ryukoku.ac.jp/contribution/covid19/>

— 寄付金のご応募は任意です —



04 | People, Unlimited

「国際交流をあきらめないで」 グローバルサポーター始動

遠藤 京平 さん

文学部哲学科教育学専攻
香川県立丸亀高等学校 出身

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、世界各国は競い合うように鎖国状態となり、グローバルに活躍していた人ほどその影響を被っている。なかでも困難に直面しているのは世界中の留学生たちだ。本学も例外ではなく、一生懸命に留学準備を進めてきたにもかかわらず直前で延期や中止となってしまった学生がいる。また一方で、この春、本学の門をくぐった新1年生の受入留学生たちは、入学式やオリエンテーションがおこなわれないうままオンライン授業がスタート、半年経っても友達ができないなど、慣れない異国で戸惑いを抱えている人は多い。

そんな彼らをサポートしようと立ち上がったのが、グローバルサポーター（通称グロサポ）だ。グロサポはグローバル教育推進センターがバックアップする学生団体で、『コロナ禍でも留学や国際交流をあきらめないで』というスローガンのもと、6月上旬から活動をスタート。リーダーを務めるのはドイツ留学経験者の遠藤京平さんだ。

「現在は、オンラインで国際交流イベントの開催や、受入留学生をサポートしたり、留学希望者向けに、留学経験談を発信するなどの活動をおこなっています」

遠藤さん自身、留学で大きな気づきを得



た。ドイツ滞在中は現地の学校でアシスタントをするなど自ら動いて人と出会うなかで「自分がどんな人間になりたいかがわかり、人生の目標ができた」という。留学経験の貴重さを知っているからこそ、グロサポの活動にも熱が入る。

「話を聞くだけで喜んでもらえるくらい孤独感を抱いている学生も多く、サポートの需要を痛感しています。グロサポは枠を設けず、なんでも相談に乗るスタンス。せっかく龍谷大学に来たからには留学してよかったと思ってほしいし、これから留学する人には夢をあきらめないでほしい。この状況で何がで

きるか、19名のメンバーたちと可能性を探っているところです」

メンバーは引き続き募集中。留学経験の有無を問わず、国際交流に関心のある方はぜひ参加を。



遠藤 京平 さん



グロサポ
Instagram

04 | People, Unlimited

大所帯の音と人を支える 吹奏楽部初の女性リーダー

村上 凜 さん

社会学部現代福祉学科4年生
玉名女子高等学校 出身

今年で創部52年を迎えた吹奏楽部に、初の女性幹事長が誕生した。2019年ウィーン国立音楽大学国際音楽祭ディヒラーコンクール最高賞受賞、第3回バスクラリネットコンクール第1位受賞するなど、バスクラリネット奏者で世界トップレベルの実力を持つ、村上凜さんだ。

「幹事長になって最初にしたのは、部員へのアンケート調査です。吹奏楽部は歴史も実績もあり、評価や賞賛の声も多いのですが、部員本人たちからは、さらなる成長を求める声が強いこともわかりました。そのようなアンケート結果を受け、細やかで内面的なア

プローチを心がけ、仲間と繋がり、演奏を楽しむという原点回帰を心がけました」

しかし、そこにこのコロナ禍が。予定されていた公演も中止。全員揃っての練習も3月末から再開する見込みは立っていない。新入生とも顔を合わすことすらできないこの逆境のなか手腕を発揮するのが村上幹事長だ。

「今まで蓄積されてきたYouTubeに加え、今年作成した新入生歓迎動画の効果もあり、例年以上の45名が入部してくれました。また、吹奏楽部は170名を超える大所帯なので、オンラインで講義やレポートの情報を共有したり、縦横の繋がりを以前より濃くして、



「盛り上げよう!大学吹奏楽!」の活動の最新情報はtwitterを

モチベーションの維持を心がけています」

学外活動でも、3月に関西七大学のコンサートが中止されたのを機に、各団体の幹部と音頭をとって、全国90校と連携した『盛り上げよう!大学吹奏楽!』という活動をスタートさせた。またSNSを駆使し、これからの部活動をどうしていくか情報をシェアして、大学吹奏楽全体の活性化を考えている。

演奏家としての村上さんの今後はというと、「コンクールの副賞でウィーンに短期留学したとき、音楽を楽しむ国民性に衝撃を受け、プロ演奏家としての道を考えました。今は退路を断ち、来年バリ地方音楽院への進学に

挑戦するのでフランス語の習得に必死です」

村上さんのこれまでの人生のパートナーともいえるバスクラリネット、ソロパートの演奏が少ない楽器であるが、全体の音を支える役割を担う。ちなみに本学吹奏楽部のキーとなる音もバスクラリネットが基準になっている。



村上 凜さん



盛り上げよう!
大学吹奏楽!
Twitter

04 | People, Unlimited

暮らして学ぶ 新たなコミュニティデザイン

柴田 悠矢 さん

政策学部政策学科 4年生
箕面自由学園高等学校 出身

高齢化により自治会の担い手が不足し、地域住民の交流が希薄化するなどの問題を抱えた市営住宅の空き部屋に、大学生が住み、自治会の一員として地域活性化に取り組む。龍谷大学と田中宮市営住宅（京都市伏見区）自治会、京都市の連携事業『3L APARTMENTプロジェクト@田中宮』が2019年4月にスタートした。3LはLocal Learning Lifeの略。公営住宅において、学生が住民として団地コミュニティの活性化に取り組むのは全国的にも新しい試みだ。

学生が生活するのは、低価格で、リフォームされた家電設備の整った1DKの部屋。

事業の一環であるため、希望者は募集のあと、面談・選考があり、入居後は自治会への参加などをおこなう。そのなかで学生自身が課題を見つけ、改善策を考え、実践する。

現在居住している学生は6名。初代入居メンバーの1人、柴田悠矢さんがリーダーを務める。同じ階の隣の部屋同士という絶妙な距離感が、シェアハウスよりプライバシーは守られて、学生同士も仲が良い。

「住民の一人として住んでみると、生活そのものがフィールドワークであり、生きた学びが得られます。これまで幅広い年齢層の方と交流する機会は少なかったのですがとても刺激



運動会で自分の住む自治体の応援をする柴田さん

を受けました。1年目の収穫は、運動会の応援や、地元藤森神社の駄馬神事に参加し、地域一丸となる感覚を味わえたことです」

溶け込むほどに課題がみえてきた2年目、コロナ禍での活動自粛ムードのなか、6名全員がZoomオンライン会議で話し合いを重ねて始めたのがラジオ体操と子どもたちへ登校時の声掛け。

「何事も僕たちの顔を覚えてもらうことが先決だと。最初は声をかけても返事がなかったのですが、続けていくと、『おはようございます』と返ってくるようになり、親御さんからも話かけていただいたり。何かありがたいという

か、うれしいですね」と柴田さん。授業とは違った学びをこの暮らしから得る。

市営住宅の空き住戸解消、地域自治体の活性化、授業と体験が連動した実践的な学びの場と「三方よし」のこのプロジェクト。他府県からも注目され始めている。



柴田 悠矢 さん



3L Instagram

05 | Education, Unlimited

オンライン授業 授業改善のきっかけに

学修支援・教育開発センター長
先端理工学部

藤田 和弘 教授

オンデマンドとライブで教室の授業を再現

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた本学では、第一に学生および教職員の安全を考え、その上で、学生の学びの機会を保障する取り組みとして、オンライン授業の実施に踏み切った。今回、全学的におこなう教育改善活動や、その支援をおこなっている学修支援・教育開発センターのセンター長藤田和弘教授にオンライン授業の実施状況と今後の展望について聞いた。

「本学はオンライン授業を実施することにともない、情報通信環境の拡充や、Webコンテンツの整備、ノートパソコンなどのレンタル受付など、学生の授業環境整備に努めています。センター長としては、全学部の教員に向けて、オンライン授業の展開事例として三つの形態を提示。一つは、オンデマンド授業（講義+演習形式）で、学生はテキストで事前予習をしてから、教員による説明動画を視聴、その後

ワークに取り組んだり、小テストを受けたりするもの。二つめは同時双方向授業（講義+演習形式）、学生は事前にスライド資料をダウンロードし、決まった時間にテレビ会議システムにログインして教員の説明を聞きます。教室での授業進行に最も近いため、まだ大学の講義に慣れていない1年生に向いている方法です。最後は少人数のゼミなどで用いる同時双方向授業（ゼミ形式）で、テレビ会議で教員の説明を聞くとともに学生も議論に参加、必要に応じて自分のPC画面を共有してプレゼンをおこなうというもの。これら三つのパターンをもとに、途中でクイズを出して理解度を確認したり、共有ドキュメントに学生と同時に書き込んで議論するなど、各教員が授業の質を落とさないよう工夫をして授業を進めています」

教員側にとっても講義の録画・編集など慣れないオンライン授業は試練だったが、教育学関係部署などとも連携し、大学一丸となって前期授業をつくりあげてきた。



Feature Article

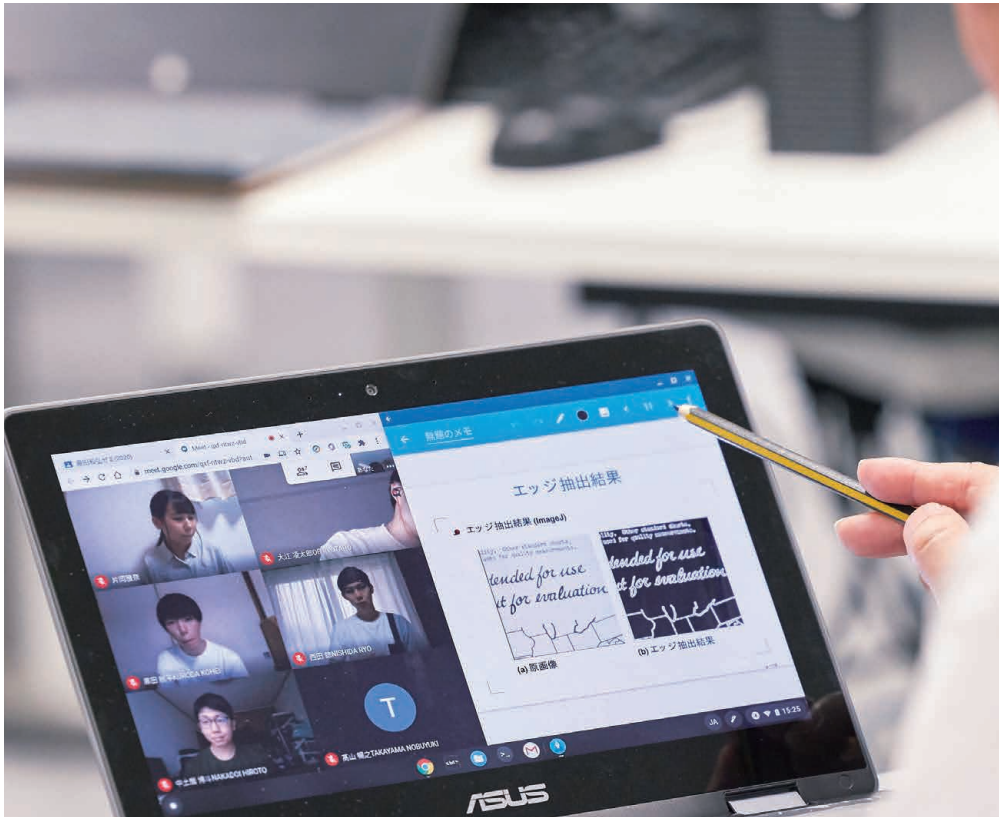
People Unlimited

Education Unlimited

World Unlimited

People Unlimited 誰々人

News & Topics



想定外に学生の満足度は高かった

アンケートで学生にオンライン授業の感想を聞いてみると「録画された授業は後で見直してできるので便利」「往復3時間の通学時間が削減され時間を有意義に使える」「授業に集中できる」「大教室で手をあげるのは緊張するが、チャットなら質問しやすい」など、意外にも多くの学生がオンライン授業に満足していることがわかった。

一方、デメリットとしては、家では集中しにくかったり、授業を簡単にサボれてしまうことから、学生の意欲や自律心の高低によって学習成果に大きな差が出る懸念がある。そ

れに関しては今後個別のフォローが大切になってくるだろう。

後期以降もオンライン授業は継続される見込みだ。藤田教授は「これからは情報伝達はオンラインで効率よくおこない、教室では演習や実験に力を入れるなど、リアルとバーチャルのミックスがより進んでいくだろうが、授業展開以上に問題になるのは、中身」という。

「これまで大学の講義は高校のように学習指導要領も決まった教科書もなく、密室でおこなわれていました。しかし、オンラインになってオープン化することで、講義内容が社会の求めている水準に合致しているかどう



藤田和弘・ふじたかずひろ

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科修士課程修了、学術博士。同大学工芸学部助教授と情報科学センター助教授を経て、2004年10月より龍谷大学理工学部情報メディア学科着任。専門は画像処理工学。画像確率モデルを基礎とした劣化画像復元及び鮮明化を研究。科学捜査に協力し、劣化した防犯ビデオなどの画像鮮明化や、科学捜査研究所研究員の指導など画像鮮明化に係る研究指導及び技術支援もおこなっている。日本法科学技術学会理事、京都府中小企業特別技術指導員。現在、先端理工学部知能情報メディア課程教授、学修支援教育開発センター長。

かを検証した上で進めることが求められると思います。世界でもトップレベルの大学が講義を発信しているMOOC（ムーク・大規模公開オンライン講義）などが参考になるでしょう。また授業展開についてもこれまであまり重要視されていませんでしたが、学生の力を引き出す工夫がより必要になるはずで、数百人の大教室で教員が90分間一方的に喋るような授業はもう時代に合いません。この数年で変われる大学と変わらない大学で、5年後は大きく変わってくるでしょう」

新型コロナウイルスで迫られたオンライン授業だが、教育の本質を考えるよいきっかけになったともいえる。災い転じて福となしたい。

05 | Education, Unlimited

オンラインで取り戻せ 失われたキャンパスライフ

国際学部グローバルスタディーズ学科

河合 沙織 准教授

国際学部国際文化学科

林 則仁 准教授

教員、職員、上級生みんなで新生をケア

4月以降、キャンパスから学生の姿がぱたりと消えた。授業はオンラインで受けられても、友人と会って語り合ったり、研究室を訪れることはできなくなった。なかでも、入学式やオリエンテーションがおこなわれないまま大学生活がスタートした新生の困惑は想像に難くない。そんな状況をふまえ、なんとかオンラインでもキャンパスと変わらない学生同士や教職員とのコミュニケーションを維持できないかと、対策を講じた国際学部。

「一番力を入れたのは新生への情報発信」というのはグローバルスタディーズ学科(以下GS学科)で初年次教育を担当する河合沙織准教授だ。河合准教授は3月に授業のオンライン化が決まるや、他の教員や教務課職員と協力して行動を開始。情報発信の窓口を統一すべく、3月中に本学が導入している教育支援サービス(manaba)に新生

がオンラインで交流できる場を作成した。4月に入ると学部長や学科主任からのメッセージを公開するとともに、新生が自由に質問できる掲示板を設置し、Q&Aを随時公開。入学から1週間で、9割の学生が掲示板を利用した。さらに「教職員のことを知ってほしい」と教職員の自己紹介と各教員から新生へのメッセージを発信、Web会議ツール(Zoom)を使って雑談タイムを実施するなど、新生がGS学科に“自分の居場所がある”と感じられるよう手厚いフォローをおこなった。

「活動していく上でとても頼りになったのが上級生です。新学期早々に4年生の有志が新生の質問・サポートを始め、教職員の対応が手薄になるGW期間中には5日間で7回オンライン新生歓迎会を開いて、質問や相談に答えつつ大学生活を充実させるヒントなどを発信してくれました。日頃から学生と教職員の距離が近いGS学科ならではのフィンプレーです」と河合准教授。



Feature Article

People Unlimited

Education Unlimited

World Unlimited

People Unlimited 誰々人

News & Topics



気軽に雑談できる空間をオンライン上にも

新入生だけでなく全学年の学生のための仕組みもスタート。1対1で教員に相談ができる「バーチャルオフィスアワー」と、和顔館(わげんかん)のラウンジやコモングズで起こる立ち話や雑談を想定した「コーヒープレイク」だ。「コーヒープレイク」はZoomなどのWeb会議システムを活用して毎日開催し、GS生なら誰でも自由に参加できる。日替わりで留学、学生生活、課題、ゼミ選びなどのテーマを設けており「誰かと話したい」「情報収集したい」という学生の受け皿になっている。

GS学科の動きをみて、国際文化学科(以

下IC学科)にも導入したいと活動を始めたのが林則仁准教授。有志の教職員たちとIC学科でもコーヒープレイクを試してみたところ新入生を中心に好評だったことから、コーヒープレイクのIC学科版として、『ICコミュ』をスタートした。

「一人で学習をしていると自分の理解度や勉学の姿勢に不安を感じる学生も多い。そんな気持ちを気軽に話せる場所になればと始めました。運営は9月にアメリカに留学予定の卒業生が担当してくれています。IC学科もGS学科もホスト役などで手伝ってくれる学生には、教授会の積立てから謝礼をお支払いしています。新型コロナウイルスの影響



河合沙織・かわいさおり(写真左)

専門はフテンアメリカ経済。東京外国語大学外国語学部卒。神戸大学大学院国際協力研究科にて国際開発政策を専攻。2006年よりJICAブラジル事務所・ペルナンブコ連邦大学公衆衛生社会開発センターにてインターン。2010年より在ブラジル日本国大使館経済班専門調査員。2015年より龍谷大学国際学部グローバルスタディーズ学科へ。近年は、経済格差にフォーカスした研究が中心で、年に2、3回現地にてフィールドワークをおこなう。学生への親身な指導が好評で、昨年度同学科のBest Teacherに選出された。

林則仁・はやしのりひと(写真右)

専門はイスラーム美術史、建築史・意匠。ロンドン大学東洋アフリカ学院美術史・考古学科卒、同大学院修了。国立民族学博物館共同研究員、京都造形芸術大学講師を歴任。2014年より龍谷大学国際文化学部国際文化学科へ。イスラーム地域の宗教建築の装飾や写本絵画を研究。最近は中世・近世の中東世界の博物誌に描かれた異境世界の不思議で珍奇な生き物の挿絵を研究している。また、2017年より、ロンドン大学との国際共同研究にも取り組んでいる。



でアルバイトができない学生も多いですから、少しでも足しになれば」と林准教授。

なんとか学生の居場所をつくりたい、気持ちを受け止めたいという思いから始まったこれらの活動に対して、学生からは「迅速に対応してくれて心強い学科だと感じた」「気軽にオンラインで相談できるので嬉しい」「入学当初より不安がなくなった」など、喜びの声が多数届いている。

学生たちがキャンパスで談笑する、そんな当たり前の風景がどれほど大切だったかを思い知った半年間。オンラインも悪くないけれど、やっぱり笑顔で集える日よ早く来い、と願わずにはいられない。

06 | Special Article

特別企画

幻の「ラジオ体操第3」で おうち時間に健康増進を

社会学部現代福祉学科

安西 将也 教授

安西 将也 あんざい まさや 昭和大学医学部公衆衛生学教室助教授を経て、本学社会学部現代福祉学科教授（医学博士）、社会学研究科長。専門は公衆衛生学（生活習慣病予防、うつ病予防の疫学）。日本公衆衛生学評議員。滋賀県国民健康保険団体連合会保健事業顧問。治験審査委員、臨床研究審査委員（京都第二赤十字病院）。天津市スポーツ協会副会長。

70年以上の時を経て蘇った「第3」

新型コロナウイルスの影響による自粛で、在宅勤務、オンライン授業など自宅にいる時間がずいぶんと増えた昨今。ステイホームは感染予防には効果的な反面、慢性的な運動不足でうっかり体重が増えてしまった、なんて方も多いのではなからうか。そんな状態を「新型コロナウイルスの二次災害」として警鐘を鳴らすのが、公衆衛生学を専門とする社会学部の安西将也教授だ。

「自粛が長引くと、生活習慣病やうつ病が増える可能性があります。健康維持の大きな柱はバランスのとれた食事と適度な運動ですが、食事はがんばっても運動を毎日継続するのは難しいという方が多いですよ。そんな人にこそ取り入れていただきたいのがラジオ体操第3です」

ラジオ体操といえば、現在も放送されている「第1」「第2」が知られているが、実は戦後の一時期だけ放送されていた「第3」がある。第1、2に比べるとテンポが早く、動きもラジオではわかりにくかった「第3」は、1946年の発表からわずか1年半で放送が終わってしまった「幻の体操」だ。

2013年に東近江市の健康づくり事業に協力していた安西教授は、この「第3」に着目。国民的体操として知られるラジオ体操なら多くの人が関心を持ちやすいのでは、と考えたことから、文献で残っていた動作解説図とネット上で見つけた音源を組み合わせて復刻。さらに同学部の井上辰樹教授（運動生理学）の協力のもと、号令を加えるなどしてわかりやすい体操にアレンジした。同市で安西教授の講演と井上教授・学生による実演をプログラムとした「ラジオ体操第3体験教室」を開催すると大きな反響があり、新聞で紹介されるや多くのTVやラジ

オなどで取り上げられて話題になった。その後も様々な市町村や教育委員会などから声がかかり、安西ゼミの学生が中心となってレクチャーに行ったり、指導者を養成するなどして「第3」普及に努めてきた。そしていま、コロナ自粛中でも自宅で簡単にできる「おうち体操」として再注目されているのである。

ラジオ体操史上もっともハード?!

ラジオ体操第3は、時間にして3分15秒の間に11種類の動作を組み合わせて、第1運動の足踏みから第16運動の足踏みまでで構成されている。ラジオ体操と侮るなかれ、どの動きも日常ではほとんど使わない筋肉を使ううえ、両手両足を大きくひらくジャンプや素早く腕を動かすなど、ユニークな動きが多いことが特徴だ。

「放送当時、第1は子どもから高齢者まで、第2は青年向け、と運動強度が上がり、第3は筋力アップのためのもので一番ハード。テンポも早いので体験教室をしていると“しんどい”という声やうめき声が聞こえてくることもあります（笑）。実際に体操した時の心拍数を計測してみると110～150拍/分という有酸素運動域をキープしており、脂肪燃焼や不安感・抑うつ感の解消に効果的です。腕を『横→上→前→下』と順に素早く動かす動作などは頭を使わなくてはできないため、頭の運動にもなり認知症予防にもなるんですよ。一方で、体操の序盤は急激に心拍数を上げず、徐々に上げていく動きになっていたり、最後も徐々にクールダウンして、体に負担がかからないよう配慮がされているなど非常に良くできた構成になっています。70年以上前にここまで考えられた体操がつくられたとは驚きです」

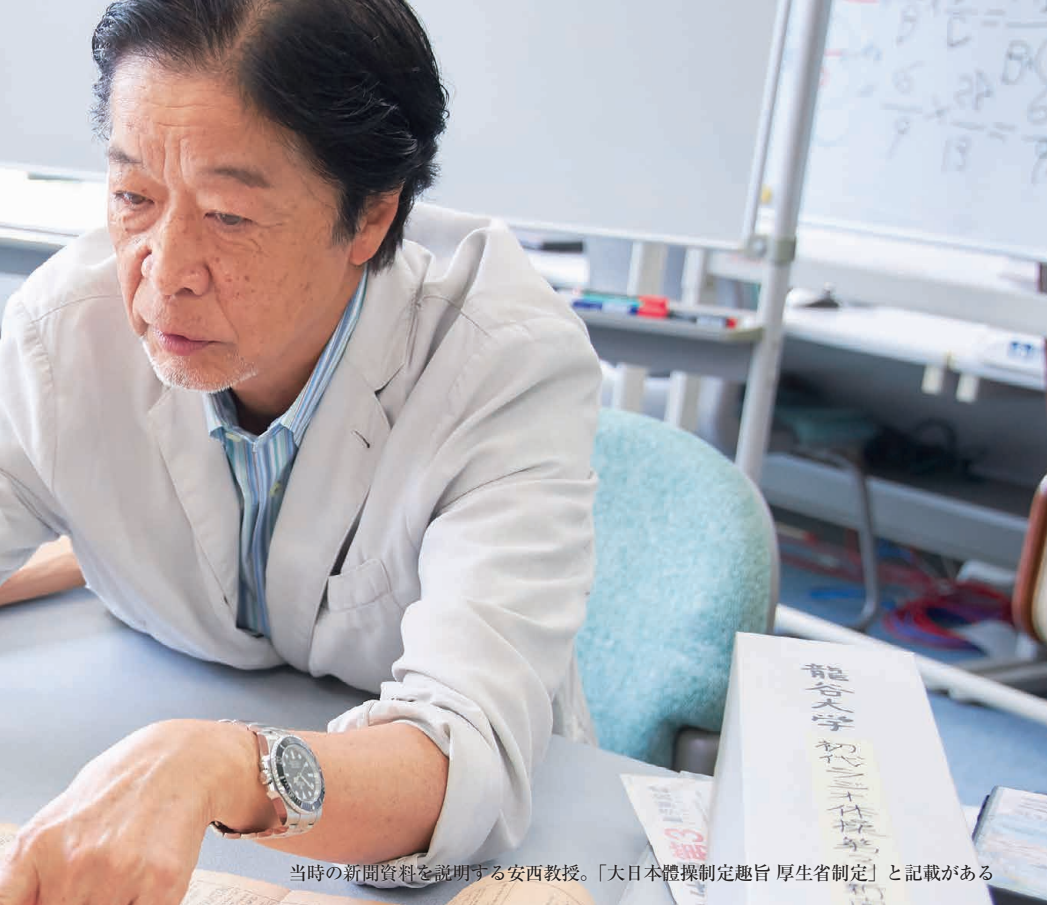


毎日続ければ、3ヶ月で効果が出る

では実際にラジオ体操第3の効果はいかほどか、安西教授が調査したデータを紹介します。2014年より滋賀県のある役場で毎朝就業前にラジオ体操第3を実施し、参加した職員の実施前後の「こころの状況変化」を調査した。実施前は71名の職員のうち28%にあたる20名に「なかなか寝付けない」といった軽度のうつ症状があったのが、ラジオ体操第3を3ヶ月続けたのちは、35%にあたる7名に改善がみられた。また職員一人ひとりの声を集めたところ「頭の回転が良かった」「リフレッシュできる」など、うつ病

予防効果といえる声のほか、みんなで体操することで「職場の雰囲気が良くなった」など組織改善にも効果があったことがわかった。

今後は新たな取り組みとして、今年7月20日、本学社会学部・社会学研究科が包括協定を締結した社会福祉法人を中心につくる有志団体「波竹の会」とのプロジェクトが注目される。安西教授は波竹の会グループ下の9つの社会福祉法人、170の施設にて職員のこころとからだの健康づくりに取り組むなかで、ラジオ体操第3を導入を予定であり、こちらの調査結果も楽しみだ。



当時の新聞資料を説明する安西教授。「大日本體操制定趣旨 厚生省制定」と記載がある

難しいからこそ、楽しい

効果もさることながら、ラジオ体操第3の最大魅力は「やって楽しい」ところかもしれない。一度で覚えるのは難しく、またユニークな動きが多いからこそ、覚えようとする意欲がわき、うまくできるようになれば喜びも感じられる。体験教室では難しい動きのところでは笑い声があがることも多く、終わるとみな笑顔になり、楽しそうな顔をしているようだ。

「楽しみながら体を動かすことで、ストレス解消にもなりますし、運動することで免疫力がアップし、新型コロナウイルスやフレイル[※]の予防効果も期待できます」

ラジオ体操第3は、YouTubeで実演動画が見られるほか、本学が運営するWEBマガジン「Mog-lab」でもフルバージョン動画がアップされている。また詳細な動作解説のついた電子書籍も発売中。一つひとつの動きのポイントを知り、正しい動作でおこなえば、より効果が高まるので、きちんと動きを学びたい方は書籍を熟読するべし。また学内では「幻のラジオ体操第3サークル」が普及活動をおこなっているのでも、興味のある学生はぜひ参加を。楽しくハードな幻の「ラジオ体操第3」、ニューノーマルな日々の日課としてぜひ取り入れていただきたい。

※ 加齢とともに運動機能や認知機能が低下してきた状態。

07 | World, Unlimited

グローバルな学術交流で
日本の犯罪学を国際水準に

犯罪学研究センター 博士研究員
デイビッド・ブルースター さん

犯罪学研究センター 国際部門長
法学部
浜井 浩一 教授



イギリスから日本の薬物政策を研究に

「世界一安全な国」といわれる日本は、一方で、犯罪の少なさゆえに犯罪学研究が進まないというジレンマを抱えている。諸外国には刑事司法や刑事政策について学ぶ犯罪学部があるが、日本では、法学や心理学などの一部で研究されているにすぎない。そこで日本の犯罪学を育成するプラットフォームとして機能してきたのが本学の犯罪学研究センターである。同センターは、発足以来、日本の犯罪学の発展にはグローバルな学术交流が不可欠として、海外の研究者の招聘や国際学会での発表に力を入れてきた。そんな背景から、2017年より同センターの博士研究員としてイギリスから来日したのがデビッド・ブルースターさんだ。「日本の研究はとて難しい、だからこそ面白い」と、言語や特殊な文化背景などのハードルを乗り越えて、日本の違法薬物政策の実態に迫る若手有力研究者である。

ブルースターさんが日本の薬物政策を研究するなかでわかってきたのは、諸外国に比べ日本の薬物使用者は極端に少ないが、必ずしも政策が成功しているとはいえないということだ。「日本では厳罰化といって薬物使用者を刑務所や精神病院に隔離する政策をとることで犯罪を抑止していますが、犯罪を犯した人の社会復帰が難しく、異常に再犯率が高いという大きな課題を抱えています」

そこでブルースターさんは、薬物使用者に対する社会の考え方に影響を与えたいと、薬物使用経験者にインタビューし、その言葉をよりリアルに表現する試みを開始。また、様々な実務家（保護観察官、警察官、薬物回復センターで働いている人々など）の価値観や目的を科学的に測定することで、彼らが再犯防止という同じゴールへ向かって協働する可能性を探っている。



有力学術誌に論文を発表する快挙

ブルースターさんは、今年7月に研究結果を論文として発表、犯罪学における世界的に有力な学術誌 *British Journal of Criminology* に掲載されるという成果を上げた。

「研究が成功した背景には、犯罪学研究センターの恵まれた環境があります。ここには日本の犯罪学をリードするトップクラスの研究者が集まっていますが、上下関係に関わらず皆さんとてもフレンドリーで、私がフィールドワークをする際には、先生方のもつ非常に幅広い人脈を紹介してもらうことができました。また、学問的自由度の高さも特筆すべき点で

す。海外の大学では博士研究員は興味のないプロジェクトにも参加しなくてはなりません。ここでは自分の研究テーマに集中できます。これはキャリアアップをめざす若手研究員にはとても大切なことです。私は研究が好きなので、毎日が楽しい。イギリスにいたらきっと退屈していたでしょう」

今後は研究を続けながら、ブルースターさんが中心となって立ち上げた国内外の犯罪・非行を研究する若手研究者ネットワーク (ECCRN) でも共同研究をおこない、日本語・英語両方での論文発表をめざす。「犯罪学はより良い社会生活のあり方を構想するのに不可欠な学問。私が進めているプロジェ



浜井浩一教授（犯罪学研究センター国際部門長）とデイビッド・ブルースターさん

クトが日本に良い影響を与えることを期待しています」

日本の犯罪学を国際水準へ

「日本は人に迷惑をかけた人を許さないという社会的圧力が強い。独特の排除型社会が日本の治安を守っているのです。だから犯罪率は低いのに幸福度も低い。そんな悲しい現状を変えるためにも、よりよい政策を提言する専門家の育成は急務」というのは同センター国際部門長の浜井浩一教授だ。

「デイビッドのような外国人日本研究者の意義は、日本社会の常識にとらわれず、社会学

の基本である当たり前を疑うという視点で、日本の問題を見ることができるところにあります。2021年6月に本学で開催が予定されている『アジア犯罪学会 第12 回年次大会』での発表にも期待したい」

犯罪学研究センターが設立以来めざしてきたのは、犯罪を抑制し、罪を犯した人たちの社会復帰を支援する『龍谷・犯罪学』だが、めまぐるしく社会情勢が変化するなかで犯罪のかたちもまた多様化しているいまこそ、同センターが果たせる役割は大きいはずだ。「今後も海外から積極的に研究者を招いて国際的なネットワークを築き、交流を深めながら『龍谷・犯罪学』を世界に発信していきます」

08 | Event Ryukoku Museum

身近な商店街でお宝発掘 庶民の信仰を伝えてきた文化財



シリーズ展 8 『仏教の思想と文化—インドから日本へ—』

特集展示 『西七条のえんま堂』

—十王と地獄の美術—』

2020年9月12日(土)～11月3日(火・祝)

休館日＝月曜日(ただし9月21日は開館)、9月23日

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、京都新聞

埋もれていた地元の文化財が、展覧会場へ。今回は、龍谷ミュージアム近くの西七条商店街(京都市下京区)に建つ『西七条えんま堂』(正法寺七条別院)が舞台だ。

「2018・2019年におこなわれた龍谷ミュージアムと西七条商店街の連携事業の一環として、えんま堂内に安置されている彫刻の調査をおこなったところ、ご本尊の不動明王

に加え、閻魔及び十王の木像が鎌倉～室町後期にかけて作られた貴重な文化財だとわかったのです。普段は地藏盆などの仏事や、地域交流の場として使われている場所での思いがけない発見でした」と本展覧会担当の村松加奈子学芸員。

村松学芸員は、かねてより地藏盆信仰、十王信仰など、近畿地方に今も残る、街中の素朴な祈りの形に関心があった。十王というのは、亡者の来世を判定する10人の裁判官であり、閻魔もその中の一人だ。

「この世での自分のおこないを見張っていると考えられたため、当時の庶民にとっては仏様より身近な存在でした。寛永2(1625)年



西七条えんま堂の内陣

には、今の前身となる十王堂が存在していたようなのですが、木像はすべてそれ以前の時代のも。なぜこれらの十王像が、長い年月をかけて、このお堂に集まってきたのかはわかっていません。しかもこの十王像、全部で11体あるのも謎です」。展示内容は、十王や閻魔にまつわる彫刻や絵画が中心となる。

そのほかに、長年地域の地藏盆の本尊として祀られてきた京都市上京区の鍛冶町町内会の地藏菩薩立像も今回初めて展示される。「京都市がかつて調査したところ平安時代後期の作とわかりました。こうして古く貴重な文化財がごく身近な町中に、今も続

く信仰のなかで存在しているのが京都の奥深さなのだと感心しています」

またシリーズ展では、インドで誕生した仏教がアジア全域に広まり、日本の社会にも根づいていく約2500年の歩みを、大きく「アジアの仏教」と「日本の仏教」に分けて紹介する。



村松加奈子 龍谷ミュージアム学芸員



龍谷ミュージアム
公式HP

09 | People, Unlimited

龍谷人

正解が一つでないから
演出の仕事は面白い

NHK 制作局
第4制作ユニットドラマ

大原 拓 さん

NHKのヒットドラマの立役者に龍谷人あり。その人、大原 拓さんは、数々の作品の演出を手がけ、現在、大河ドラマ「麒麟がくる」のチーフ演出を任されている。

演出とは、物語や登場人物を追求し、芝居づけ、撮影や美術、音楽などの方向性まですべてを決めていく仕事。長丁場の大河ドラマでは数人の演出家が各回を担当するが、チーフとしてドラマの構想から携わり、脚本家や俳優の選定、物語の方向性の決定と統一など、演出すべての陣頭指揮にあたる。そんな大原さんだが、芝居や演出の経験はなく、映画好きが高じてドラマの世界へ。演出のノウハウは現場で培った。

今回の主人公は明智光秀。領民思いの名君という史料も多く、以前から織田信長を討った冷淡な謀反人というイメージに疑問を抱いていた大原さんは、かつてない光秀像、群像劇を創ることを旗印に掲げた。

最良の答えを求め、数多ある答えを発見できるのが演出の仕事の魅力。演者と表現

方法を綿密に話し合い、テイクを重ねて、取捨選択していくが、それには学生時代、様々な人と交流を図り、個々の考えを客観的に捉えながら、自らの考え方を確立していったことがベースになっている。

「人によって考えが異なるのは当然。若い人だからこそ“言葉”“思い”を伝え、意見議論できる人になってもらいたい」

多様な思考、視点から新たな面白さを見つけて共有。そうして様々なセクションと演出が合致した時や視聴者から好評を得た時に出るアドレナリンがなんとも心地いいと大原さん。新型コロナウイルスによって、長期の収録休止を余儀なくされたが、新たな展開や登場人物に向き合うなど、冷静に日々を過ごし、再開に備えてきた。

「コロナ禍をはじめ、閉塞した現代社会は戦国時代とどこかリンクしている。仁のある政者が現れると降り立つ聖獣・麒麟がくることを願い、大河ドラマでは想定外の事態をどうクリアしていくかを描いていきたいです」



おおはら たく 1996年文学部卒業後、NHKに入局。2000年からドラマ番組部に所属し、演出を担当。連続テレビ小説「梅ちゃん先生」「とと姉ちゃん」、プレミアムドラマ「真夜中のパン屋さん」などを手がけ、高視聴率を記録。「麒麟がくる」は、「武蔵」「功名が辻」「軍師官兵衛」に続いて担当する4度目の大河ドラマで、初のチーフ演出を務める。2016年龍谷奨励賞受賞。

09 | People, Unlimited

龍谷人

人と繋がり、寄り添い、
保育の課題解決に尽力

ひかりのくに株式会社
書籍編集部

松尾 実可子 さん

創業75年。幼児向けの絵本や教育雑誌の出版、保育用品の企画・販売などの事業を展開する老舗・ひかりのくに。そのなかで、松尾さんは日本初の「保育実践」に特化した雑誌として1952年に発刊された『月刊保育とカリキュラム』の編集者として活躍している。

この雑誌は、政府の教育要領、保育指針、教育・保育要領を基に、年齢別・月別の指導計画の立て方、計画書の書き方、製作物・出し物の提案、園や子どもの現状、専門家のアドバイスなど、掲載内容が多岐にわたるため、発売の半年～1年ほど前から企画がスタート。園の取材、先生へのヒアリング、専門家への執筆依頼、誌面デザイン、原稿の校正など、仕事は量も範囲も相当で、発売日という期限にも迫られるが、松尾さんはどんなに時間がなくとも丁寧かつ慎重な仕事を徹底する。

「入社して初めて携わった単行本が刷り上がった時、感動以上に、これが世の中に出る、お金を払って購入いただく、という怖さを感じたことが根底にあるのでしょう」

もう一つ、仕事で徹底していることが園の課題解決。毎月のヒアリングを通じて、自分の指導や支援は正解なのかと悩む先生が多いことを知ったからだという。具体的には他園の取り組みや成功事例を写真、実際の声を多用してわかりやすく伝え、参考にもらう、提案内容をまたヒアリングし、効果を検討するなど、一つひとつ地道に、そして先生たちとともに汗を流す。昨今は子どもたちの三密の回避、正しい消毒方法といった新型コロナウイルスの感染予防や新しい様式への相談も増え、対応を進める松尾さん。園の運営や先生の指導で何かあった時、雑誌が頼れるバイブルになってほしいとの願いも込める。

「私は保育や教育を専門的に学習していませんが、政策学部でおこなった淡路島での地域活動で、地元の方の悩みを聞き、課題解決策を実践したことが今に繋がっています。園や先生はもちろん、スタッフ、専門家など、人との絆を大切に、人のために役立つことが仕事であり、何よりの喜びです」



まつお みかこ 2016年政策学部卒業。大阪府出身。出版業界への興味と出身高校の近隣ということに縁を感じ、ひかりのくに株式会社入社。保育図書の制作を経て、『月刊保育とカリキュラム』の編集を担当。姪、甥と身近に暮らす環境から得た子ども、保護者に関する情報も仕事に活かす。

09 | People, Unlimited

龍谷人

失敗を恐れず、自ら動き、
人、店を成功へ導く

イトアンド株式会社
外食事業統括 兼 海外戦略本部長
常務取締役

植月 剛さん

1995年、阪神淡路大震災が発生。社会学部4年生だった植月さんはラーメンの炊き出しのボランティアに参加。涙を流しながらラーメンをすすむ被災者の姿に心を動かされ、その温かい一杯を振る舞う大阪王将食品株式会社、現イトアンド社に就職を決めた。

当時、会社は新たなフードビジネスの展開に向けて、様々な外食フランチャイズに加盟。植月さんはその先鋒に任命され、多数の業態と店舗立ち上げに携わる。さらに自社のカフェ事業開始時には、夜間、専門学校に通ってコーヒーマイスターの資格を取得。第1号店を軌道に乗せると、たった一人で香港へ。広東語はおろか英語も話せなかったが、スタッフの募集、食材・機材の調達に奔走し、ショップでは先頭に立ってコーヒーを提供した。

「店舗の成功には、どんなことでも率先してやるのが大切。現場では地位も立場も関係ありません。そうすれば、日本でも海外でもスタッフは自然に動いてくれますね」

現在は多くのスタッフを率い、外食の新規

事業を一任されている。先日、出し汁を固めてかたどった熊が鍋に浸かる、何ともユニークで可愛いしゃぶしゃぶを提供する「北海道めんこい鍋 くまちゃん温泉」を札幌にオープンしたところ、SNSでおおきな話題を呼んだ。

「熊が温泉につかったようなスタイルには賛否両論ありましたが、ノートライ・ノーエラーは嫌だし、ともに企画した仲間もいたので、ゴーをかけました」

優れた洞察力、行動力はもちろん、この人についていけば面白い、一緒にがんばってくれると思わせる人間力も植月さんの成功、リーダーたる所以に違いない。

イトアンド社からは、コロナ禍によって生活が困窮した本学生のために、餃子をはじめ、自社の冷凍食品が提供された。

「母校の後輩たちを手助けできたのは格別ですね。食べることは生きること。どんな状況でも、おなかいっぱい幸せを届けていきたいし、次の面白い業態も進行中なので、楽しみにしてもらえればうれしいです」



うえつき たけし 1995年社会学部卒業。阪神淡路大震災のボランティアをきっかけに、食を通じた社会貢献をめざす。入社後は外食の新規業態一筋で、香港、タイにも赴任。店舗デザインからコンセプト、メニューまで、あっと驚くアイデアに満ち溢れ、高い信頼を得ている。

10 | News & Topics

最新情報



柔道部 武田亮子さんが ヨーロッパオープン・ブラチスラ バで金メダルを獲得

2020年2月スロバキア・ブラチスラバでヨーロッパオープン・ブラチスラバがおこなわれ、武田亮子さん(経営4年)が52kg級の日本代表として出場。今大会、初戦から投げ切れないなかでも試合をまとめ、決勝戦では強豪国フランスの選手に勝利し、危なげない試合内容で見事金メダルに輝いた。ユニバーシアード競技大会以来の国際大会であり、これで国際大会5連勝。海外でも通用することが証明された。



「第10回アーバンデザイン甲子園」で政策学部 阿部大輔ゼミが 最優秀賞を受賞

本コンペは2010年より開催されており、近畿圏の大学・大学院におけるアーバンデザインや都市計画・まちづくりの演習、実践、卒業設計などを集めて、教員・学生が一堂に会し、作品発表・意見交換・情報交流をおこなうもの。2019年度は25作品の応募の中から、本学の政策学部阿部大輔ゼミの「都市の邂逅(かいこう)」を継ぐ-遊休余剰不動産を活用した多様性の再生-が最優秀賞(優勝)を受賞した。



理工学部情報メディア学科所属学 生制作のCM動画が第16回AC ジャパン広告学生賞奨励賞を受賞

第16回ACジャパンCM学生賞(主催:ACジャパン)のテレビCM部門で、理工学部の情報メディア学科所属学生制作の「拡散する」ことに対して責任を持てますか?」が、奨励賞を受賞した。今回、全国の大学や専門学校から応募された283作品の中から選ばれた。情報メディア学科の学生が受賞するのはこれで4度目となる。



受賞動画YouTube



農学部×伊那食品工業(株) 「KANTENプロジェクト」を実施

寒天をテーマにした製品開発「KANTENプロジェクト」。これは寒天業界のトップメーカー伊那食品工業株式会社(長野県伊那市)の協力を得て、寒天の歴史や健康機能を知り、可能性を創造し、アイデアを考案する正課外活動である。水の交換なしで2週間は美しい状態をキープできるという、寒天のフラワーベースを考案したチームが2019年の最終報告会にて1位(伊那食品工業賞)を受賞した。特許の申請や、商品販売につながる可能性も出ている。



「漬物グランプリ2020」で農学部資源生物科学科の学生が「金賞」を受賞

2020年4月「漬物グランプリ2020」にて、秦菜月さん(農2年)が作品名「春の日の」で金賞を受賞。本学の学生は、本大会に2017年から出場し、毎年決勝大会に進んでいる。「漬物グランプリ2020」でも、一次審査、二次審査を通過し、決勝大会に出場する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により決勝大会が中止となり、二次審査会で優秀な成績を収めた秦さんの作品に金賞が授与された。



『ボラセンついーと大作戦～ボラセンスタッフ's stay home life～』が始動

コロナ禍で学生が大学へ入構することができない中、ボランティア・NPO活動センターが『ボラセンついーと大作戦～ボラセンスタッフ's stay home life～』と題して、Twitterによる情報発信をスタート。同センターの学生スタッフや職員の活動やボランティアに関する情報を随時発信し、大学再開後の活動にもつなげていく。



ボラセンTwitter



オンライン「手話講座」実施中

全国手話研修センターとの連携協力協定に基づき、2019年度より開始した手話講座。今年度はコロナ禍で、オンライン講座としてスタートすることとなった。現在、「手話入門」「手話コミュニケーション」「手話通訳」の3講座に、合わせて30名ほどの本学学生が参加している。障害者基本法において「手話が言語」とあると定義されるなど、今後ますます手話通訳等の意思疎通支援者への質的、量的ニーズが高まる中、学生たちは楽しみながら、聴覚障害についてや手話言語・手話通訳を学び、全国手話検定試験等の合格をめざしている。 <https://www.com-sagano.com/ryukoku>



龍谷大学が「学まち連携大学」促進事業の採択大学として認定

2020年8月、「学まち連携大学」促進事業（発展型）に本学から申請した「伏見をフィールドにした地域連携教育プログラムの展開—まちぐるみキャンパス（学び合いのコミュニティ）の深化—」が採択され認定式が開催された。京都市と公益財団法人大学コンソーシアム京都から支援を受け、地域の住民組織や市民団体、地域企業、商店街、高校などと連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発及び実施に取り組んでいく。



ノーベル平和賞受賞者で経済学者のムハマド・ユヌス博士がオンラインチャリティー講演会に登壇

2020年7月、龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターが共催するオンラインチャリティー講演会にムハマド・ユヌス博士（ノーベル平和賞受賞）が登壇。演題を「NO GOING BACK 『アフターコロナ～経済制度をゼロから設計する～』」とし、コロナ禍による荒廃から世界をどう再建すべきか、白紙からの再設計を説かれた。本講演会は当日500名を超える参加者があった。



先端理工学部 木村睦教授の研究がテレコム先端技術支援センターの研究助成に採択

先端理工学部木村睦教授の研究テーマ「ワイヤレス電力伝送と光電変換薄膜デバイスによる完全埋込型の人工網膜」が、一般社団法人テレコム先端技術支援センター（SCAT）の令和元年度研究助成に採択された。同センターの研究助成は、地球規模での高齢化問題、環境問題、人口・資源・エネルギー問題など、様々な社会的課題を、先端的情報通信技術の研究開発により克服する研究の支援を目的に、公募・採択している。



先端理工学部 植村渉講師と株式会社NYSの研究開発テーマが「関西みらい共同研究助成」に採択

本学は、2016年に関西アーバン銀行（現：関西みらい銀行）と産学連携に関する技術相談などを目的とした協定を締結。協定締結以降、連携教育研究機関と関西の中小企業とが連携して応募する関西みらい共同研究助成に応募し、連続して採択されている。今年も、滋賀県大津市にある警備会社、株式会社NYSと本学先端理工学部植村渉講師との自律移動警備ロボットの研究開発テーマが採択された。



滋賀テックプラングランプリにて先端理工学部 田原准教授、松室助教が企業賞を受賞

2020年7月に開催された、第5回滋賀テックプラングランプリにて、先端理工学部 田原大輔准教授が企業賞（東洋紡賞）、松室堯之助教が企業賞（特別賞）を受賞した。本イベントは、本学も加盟する「滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム」により運営され、滋賀県内に拠点を置く大学や第二創業をめざす企業等からモノづくり及び水・環境などの分野に関連したビジネスシーズを発掘することを目的としている。



社会福祉法人『波竹の会』と社会学部、大学院社会学研究科が教育研究協力に関する包括協定を締結

2020年7月、社会学部（学部長：山田容）及び大学院社会学研究科（研究科長：安西将也）は、「波竹の会」に所属している社会福祉9法人との間で、相互に教育研究に関する協力・連携を図るための包括協定を締結。今後、9つの社会福祉法人と、社会人大学院生の受け入れ、学生のインターンシップ受け入れ、職員としての採用、共同研究や各種調査の実施など、組織レベルでの協力関係を強固なものにしていく。



電子図書館サービス「LibrariE（ライブラリエ）」を導入

2020年7月から、これまでの電子書籍とは違った新しい電子図書館サービス「LibrariE（ライブラリエ）」を導入した。「LibrariE」は、一般書を中心とした電子図書館サービスで、個人所有のデバイス（PC、タブレット、スマートフォン）などから、365日・24時間いつでも電子書籍の貸出・閲覧・返却ができる。搭載コンテンツは、読書利用の図書やキャリアセンターが選定した就職活動の参考図書など、1,000点以上となった。



JR大津駅前～瀬田キャンパス間新スクールバス運行スタート 〈新快速⇄JR大津駅前⇄瀬田キャンパス〉

2020年9月より、新型コロナウイルス感染防止策の一環として、新たにJR大津駅前～瀬田キャンパス間の通学バスの運行を開始した。これによりJR瀬田駅前～瀬田キャンパス間の既存の通学バスの混雑が緩和できるとともに、京都・大阪方面からJRを利用して通学する学生はJR大津駅からの通学バスを利用できるようになり、より早く、便利に通学できる環境を整備した。



龍谷大学公式HP

新刊紹介

*価格はすべて税別で表示
*四角囲みの書籍は、大学から出版助成を受けたもの及び卒業生の新刊情報

龍谷大学里山学研究センター

『Satoyama Studies: Socio-Ecological Considerations on Cultural Nature』

村澤 真保呂(社会学部教授)編



人間と手つかずの自然を結ぶ「二次的自然」としてのSATOYAMAは、持続可能社会の鍵概念として、とりわけ昨今はSDGsや新型コロナウイルス問題をつうじて、世界的にその研究の重要性が高まっている。

本書は、これまで里山学研究センターで培った学際研究の成果をまとめ、国際学術界に向けて発信する著作である。

2020年2月刊/204頁/Union Press/2500円

龍谷大学社会科学研究所叢書第128巻

『團藤重光研究

—法思想・立法論、最高裁判事時代—

福島 至(法学部教授)編著



2012年に龍谷大学に、團藤重光博士所蔵の書籍や資料など多数(團藤文庫という)が遺贈された。本書は、團藤文庫中の戦前から戦後にかけての日記や立法資料、最高裁事件記録のいくつかを

詳細に分析し、博士の法思想とその変遷、知られざる最高裁評議の経過を明らかにする。團藤重光研究に関する本邦最初の書籍である。

2020年3月刊/344頁/日本評論社/6000円

龍谷大学里山学研究センター

『森里川湖のくらしと環境

—琵琶湖水域圏から観る里山学の展望—

牛尾 洋也(法学部教授)、伊達 浩憲(経済学部教授)、宮浦 富保(先端理工学部教授)編



本書は、里山学研究センターが行ってきた「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(平成27～令和元年度)の研究成果である。「琵琶湖水域圏」を、森—里—川—湖がつながる自然循環・共生シ

ステムとして捉え、里山学の学際的アプローチにもとづいて、次世代の人びとの暮らしと環境のあるべき姿を提案する。

2020年3月刊/270頁/晃洋書房/3500円

龍谷大学社会科学研究所叢書第127巻

『ヨーロッパ私法・消費者法の現代化と日本私法の展開』

中田 邦博(法学部教授)、若林 三奈(法学部教授)編



本書は、欧州を中心とする私法・消費者法の現代化にかかる最新動向と、これに呼応する日本法の問題状況を捉えた計33編の論考を収録する。内13本は、本学社会科学研究所指定研究・科研費等

の助成により招聘した各分野の第一人者である海外研究者の論考である。日本の学会で関心の高い欧州私法の動向を追う5冊目の社研叢書となる。

2020年4月刊/720頁/日本評論社/7500円

龍谷大学社会科学研究所叢書第129巻

『新時代の犯罪学

—共生の時代における合理的刑事政策を求めて—

石塚 伸一(法学部教授)編著



犯罪をめぐる現実は大大きく変容している。しかし、「犯罪人」のイメージは、依然として「文明に取り残された先祖返り」の野蛮な人たち(C・ロンブローゾ)。本書は、犯罪をめぐる理論と実践の融合の地平で

日々実験と実装を続けている犯罪学者14人による新たな地平への旅立ちの書である。新しい知恵の到来を告げる、ミネルバの梟が飛び立つ姿をご覧ください。

2020年2月刊/322頁/日本評論社/6000円

龍谷大学社会科学研究所叢書第130巻

『中東諸国民の国際秩序観

―世論調査による国際関係認識と越境移動経験・意識の計量分析―』

浜中 新吾(法学部教授)編著



本書はアラビア語と現地事情に通じた中東地域研究者と計量政治分析手法に長けた比較政治学者との10年間にわたる共同研究の集大成である。

中東諸国で実施されたオリジナルの世論調査データから、一般国民の政治意識、国際関係認識、越境移動の経験と意識を解明する。

2020年3月刊/316頁/晃洋書房/3800円

龍谷大学社会科学研究所叢書第131巻

『共生の思想と作法

―共にによりよく生き続けるために―』

笠井 賢紀(元社会学部准教授)、
工藤 保則(社会学部教授)編



本書では「共生」を<目標>ではなく、私たちが不断の努力で良くし続けなくてはいけない状況<だ>と捉え直している。共生のためには他者と関わりを持ち続けるための思想と作法が必要である。こうした共生

観を投げかける序章に、15名の著者がSDGs、宗教、まちづくり、アニメ、落語、音楽など多様な分野から応答している。

2020年3月刊/240頁/法律文化社/4200円

龍谷大学社会科学研究所叢書第132巻

『台湾メディアと日本

―「日本へのまなざし」はどのように生み出されているのか―
八幡 耕一(国際学部准教授)編著



「親日的」とされる台湾だが、その顕著な日本への関心には誰が、どのように関わっているのか。本書では、台湾メディアの第一線で働く関係者への聞き取りと、日本に関する商品広告や報道の内容分析から、「日本」という記号の送り手たちの素顔に迫る。日本・台湾・中国の研究者の協働による、日本における台湾メディア研究の空白を埋める一冊。

2020年3月刊/246頁/晃洋書房/3500円

龍谷大学仏教文化研究叢書39

『源信撰『阿弥陀経略記』の訳注研究』

村上 明也(非常勤講師)、吉田 慈順(非常勤講師)編



本書は、平安時代の天台僧・恵心僧都源信が著した『阿弥陀経略記』を取り上げ、現存する写本や刊本を完全網羅しながら、解題・訓読・補注・諸本校勘・翻刻・影印の各方面より文献研究を行なったものである。『往生要集』の執筆から約30年、彼の浄土思想はどのように昇華したのか。浄土教研究待望の一書として注目される。

2020年3月刊/346頁/法蔵館/7500円

龍谷大学仏教文化研究叢書40

『「大乘莊嚴経論」第II章の和訳と注解

―大乘への帰依』

能仁 正頭(文学部教授)編



『大乘莊嚴経論』は、インド大乘仏教初期瑜伽行唯識派の思想を伝える最重要文献である。三宝帰依の意義を明かすその第II章について、大乘仏教の巨匠・世親の註釈書を、安慧及び無性のチ

ベット文複註とともに翻訳し、詳細な解説を加えた。また最新の梵文写本情報を網羅し、国内外の研究者の論考をもあわせ収める。シリーズ3作目。

2020年5月刊/320頁/法蔵館/3000円

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書12

『日本仏教と西洋世界』

嵩 満也(国際学部教授)他編



西洋が提示する新たな世界観は、日本仏教に何をもたらしたのか？日本近代仏教の革新者たち12名と西洋との交錯から、仏教再編の歴史をさまざまな局面で読み解き、日本仏教にとって「西洋化」とは何

かということについて本格的に問うた論考をまとめた本である。本書は、アジア仏教文化研究センターで5年間積み重ねた共同研究の成果でもある。

2020年3月刊/366頁/法蔵館/2300円

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書13

『日本仏教と論義』

楠 淳澄(文学部教授)、野呂 靖(文学部准教授)、
亀山 隆彦(非常勤講師)編



本書は、2015年度より2019年度にかけて文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクトの成果の一つであり、龍谷大学アジア仏教文化研究センター叢書13にあたる。内容は、日本の仏教と文化が論義研鑽によって培われ展開したことを21名の研究者による最新の論文を編集して明らかにしたものである。

2020年2月刊/624頁/法蔵館/7500円

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書14

『大谷光瑞の構想と居住空間』

三谷 真澄(国際学部教授)編



大谷光瑞師の没後70年記念国際シンポジウム(2018年)をもとにした書籍。大谷探検隊を含む多面的活動を通して、光瑞師のめざしたものは何であったのか、彼がそこで構想を練り、構想を具現化した居住空間に焦点をあて、国際的規模で遂行された事業の背景や意義を再考する。イギリス、トルコ、中国、台湾、日本の研究者11名の研究成果などを収載。

2020年3月刊/260頁/法蔵館/3500円

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書15

『日本仏教の展開とその造形』

道元 徹心(先端理工学部教授)編著



2019年1月、ハーバード大学ライシャワー日本研究所と龍谷大学アジア仏教文化研究センター(BARC)の共同主催の国際シンポジウムが、ハーバード大学ライシャワー日本研究所で開催された。本書はそれを書籍化したもので、仏教の教理・歴史・美術の分野から日本仏教の展開に新たな視座を与えた。

2020年3月刊/392頁/法蔵館/8000円

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書16

『最古の世界地図を読む』

—『混一疆理歴代国都之図』から見る陸と海—

村岡 倫(文学部教授)編



龍谷大学所蔵『混一疆理歴代国都之図』は、15世紀に李氏朝鮮で作られた現存最古の世界地図の一つである。劣化が進んでいたが、本学のプロジェクトによる最新の復元技術でよみがえった。従来の文字解析を中心とした同図の研究から、復元図をもとに、歴史資料として「読む」という新たな研究の局面を切り開いたのが本書である。

2020年3月刊/302頁/法蔵館/3200円

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書17

『国際社会と日本仏教』

楠 淳澄(文学部教授)、中西 直樹(文学部教授)、
嵩 満也(国際学部教授)編



本書は、2015年度より2019年度にかけて文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクトの成果の一つであり、龍谷大学アジア仏教文化研究センター叢書17にあたる。内容は、すでに奈良・平安の時代から国際色豊かであった仏教が明治から現代にかけての国際交流の中で更に進展していくあり方を24名の研究者の小篇で論じ、現代社会における仏教の課題と展望を明らかにしたものである。

2020年1月刊/260頁/丸善出版/2500円

龍谷大学アジア仏教文化研究センター文化講演会シリーズ3

『修二会 お水取りと花会式』

—聖地に受け継がれし伝灯の法会—

楠 淳澄(文学部教授)編



本書は、2015年度より2019年度にかけて文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクトの成果の一つであり、龍谷大学アジア仏教文化研究センター文化講演会シリーズ3にあたる。内容は、華やかな儀式に見られがちな南都の法会である修二会が実は「行」であったことを明らかにしたものである。

2020年1月刊/118頁/法蔵館/1300円

龍谷大学アジア仏教文化研究センター
文化講演会シリーズ4

『比叡山の仏教と植生』

道元 徹心(先端理工学部教授)編



龍谷大学アジア仏教文化研究センターが主催した文化講演会を書籍化したものである。比叡山は「日本仏教の母山」と称され、延暦寺は「御山は御大師様の体、御山の木々は御大師様の衣」という

理念のもと森を護ってきた。本書ではこの比叡山について、伝教大師最澄の教えと歴史・天然林や植生といった多方面から易しく解説している。

2020年3月刊/208頁/法蔵館/1500円

龍谷叢書52

『「ダンシアッド」における風刺の研究』

福本 宰之(文学部教授)著



18世紀イギリス風刺文学の金字塔ともいべき『ダンシアッド』。そこで槍玉に挙げられているのは、同時代の政治、風俗、文学である。この作品の諷意を読み解くことによって、当時の社会の在り様が浮き彫りにされる。日本でこれまで顧みられることのないこの大作を、その起源や手法に至るまであらゆる角度から徹底的に論じたのが本書である。

2020年6月刊/312頁/晃洋書房/4500円

『近江商人の生活態度—家訓・倫理・信仰—』

窪田 和美(龍谷大学名誉教授)著



近江商人は、現代に比して様々な封建的規制の強かった時代において他国商いで成功した商人集団に源を発している。単に自己の利益だけに固執することなく、地域社会への貢献をも視野に入れた持続可能な経済活動を行うことで、時代を超えて受容されてきた。本書は、その精神構造と生活態度を実証的に分析することにより、その

現代的意義を明らかにした。

2020年2月刊/304頁/法蔵館/3500円

書評「京都新聞」2020年7月5日

龍谷叢書51

『西洋中世の正義論』

山口 雅広(文学部准教授)共編著、
伊藤 邦武(文学部客員教授)、
平野 和歌子(文学部講師)共著



正義とは、もっとも広い意味では、個々の人間や共同体が本来もつべき「正しさ」である。本書は西洋中世とその前後の時代におけるさまざまな正義論を再考することで、西洋中世における正義論の多様な哲学的展開、複雑に入り組んだ影響関係を探る

影りにし、その中に現代的意義を見出す試みである。

2020年5月刊/328頁/晃洋書房/3800円

『刑事施設の医療をいかに改革するか』

赤池 一将(法学部教授)編著



自由を剥奪された厳しい規律下で生きる受刑者の究極の関心は、自らの社会復帰である前にまずその健康であろう。受刑中に心身の極度の不調や痛みを訴えながら長く放置され、刑務所内で病気を発見できず、結局、手遅れになってから外部の病院に運ばれた直後に命を失う例は少なくない。本書ではそうした悲劇の構造的な原因と解決策を検討した。

2020年2月/540頁/日本評論社/7500円

『児童扶養手当制度の形成と展開

—制度の推移と支給金額の決定過程—』

堺 恵(短期大学部准教授)著



本書は、ひとり親世帯への所得保障の一つである児童扶養手当制度が、どのような経緯のもとに創設され、どのように推移して今日に至るのかを辿る歴史研究である。特に、児童扶養手当の支給金額に着目し、

その推移と決定が、児童扶養手当法の目的にある、「児童の福祉の増進」といった視点からなされているのかを探究したものである。

2020年1月刊/晃洋書房/368頁/6600円

龍谷大学国際社会文化研究所叢書第25巻
『「三字唐話」の研究 基礎資料篇』
岩田 恵幸(龍谷大学名誉教授)編著



九州大学図書館石崎文庫及び国文学研究資料館に蔵される『三字唐話』二本を校合し、その間の異同を「校勘おぼえがき」としてしめすとともに、本書所載の唐話・唐音を「語句一覧表」「字音表I,II」として整理した。これらは唐話教本の系譜を辿るうえでの、また唐話・唐音研究、日本語史研究にのための基礎資料となろう。

2020年2月刊/466頁/白帝社/8000円

『無名峠』

泉 りょう(1975年度文学部卒業/作家/大阪府)著



明治5年早春、15歳の少年が丹波篠山と柏原の境、鐘が坂峠を越えていた。
地域に残る古文書を繙き描く、明治を生きた名もなき男の物語。

2020年7月刊/190頁/ブイツーソリューション/
1000円

『成年後見制度の社会化に向けた ソーシャルワーク実践』

一判断能力が不十分な人の自立を目指す社会福祉協議会の取り組み一』

香山 芳範(2003年社会学部卒業/社会福祉士/
非常勤講師)著



成年後見制度の社会化に向けた社会福祉協議会の役割を考察した理論と実践の書。事例を通して、成年後見の社会化を実現するための全過程を考察。

2020年7月刊/108頁/法律文化社/2000円

■『幻のラジオ体操第3 Kindle版電子書籍』

安西 将也(社会学部教授)著

昭和21年にNHKラジオ放送されたが、わずか1年半で消えたラジオ体操第3を復刻させて、動作解説と効果を掲載した。

2020年6月刊/48頁/KADOKAWA/1000円(電子書籍)

■『エッセンシャルスポーツ栄養学』

石原 健吾(農学部教授)共著

スポーツ栄養学の基礎的・応用的側面から、重要な項目を中心に全体像を俯瞰しやすい分量にまとめた公認スポーツ栄養士養成のための教科書。

2020年3月刊/292頁/市村出版/2800円

■『多文化共生のためのシティズンシップ教育実践 ハンドブック』

川中 大輔(社会学部講師)共編著

多文化共生社会を実現する市民性を育むために、労働や医療、災害や政治参加などの7つの場面で葛藤状況への考察/実践を問うプログラムを提起。

2020年3月刊/176頁/明石書店/2000円

書評「八重山毎日新聞」2020年4月14日

■『世界哲学史4—中世II 個人の覚醒』

伊藤 邦武(文学部客員教授)共編、山口 雅広(文学部准教授)共著

モンゴル帝国がユーラシアを征服し世界システムが成立する中、世界哲学はどう展開したか。超越者に還元されない個人の覚醒に注目し考察する。

2020年4月刊/288頁/筑摩書房/880円/

■『世界哲学史6—近代I 啓蒙と人間感情論』

伊藤 邦武(文学部客員教授)共編著、山口 雅広(文学部准教授)共著

啓蒙運動が人間性の復活を目標とすることを、東西の思想の具体例とその交流の歴史から浮き彫りにしつつ、18世紀の東西の感情論への眼ざしを探る。

2020年6月刊/304頁/筑摩書房/920円

■『世界哲学史7—近代II 自由と歴史的發展』

伊藤 邦武(文学部客員教授)共編著、竹内 綱史(経営学部准教授)共著

世界の知的営為を俯瞰する初の試みである「世界哲学史」シリーズ第7巻(全8巻)。本巻では激動の19世紀を扱う。

2020年7月/300頁/筑摩書房/920円

■『現代フランス哲学入門』

上垣 豊(法学部教授)、山口 雅広(文学部准教授)共著

「きちんと知りたい」に応える、フランス現代思想の最新版入門書。気鋭の執筆陣がフランスの思想家たちの魅力を丁寧に解説した。

2020年7月刊/442頁/ミネルヴァ書房/3500円

■『基本講義 刑事訴訟法』

福島 至(法学部教授)著

龍谷大学法学部及び龍谷大学法科大学院で教鞭をとる傍ら、弁護士として刑事事件に取り組んできた経験をいかした最新の概説書である。

2020年4月刊/344頁/新世社/2980円

■『沖縄で新聞記者になる一本土出身記者たちが語る沖縄とジャーナリズム』

畑仲 哲雄(社会学部教授)著

本土で育ち、沖縄に渡って新聞記者になった人たちのインタビュー。彼らのアイデンティティや立ち位置の変容から、沖縄ジャーナリズムを考える。

2020年2月/189頁/ボーダーインク/1200円
書評「琉球新報」2020年3月22日・5月17日、「沖縄タイムス」2020年4月18日

■『戦争と平和の経済思想』

小峯 敦(経済学部教授)編著

通商による平和、資源の効率的利用。こうした典型的な経済学的思考を越えて、歴史的・現代的視野から戦争と平和の経済学を探る。

2020年3月刊/324頁/晃洋書房/3200円

■『基本講義 消費者法 第4版』

中田 邦博(法学部教授)編著

消費者法の改正に対応した定番教科書の最新版。消費者契約法の改正規定の解説、オンラインプラットフォーム取引についてのコラム等を新たに加えた。

2020年3月刊/404頁/日本評論社/2800円

■『新ブリュメール民法1 民法入門・総則 [第2版]』

中田 邦博(法学部教授)著

2020年4月に施行された改正民法、消費者契約法の改正に対応した教科書の最新版であり、この間の教育上の経験を踏まえ新たな情報を追加した。

2020年3月刊/354頁/法律文化社/2800円

■『まるごと仏教ライフ』

武田 晋(文学部教授)著

激しく移りかわる現代社会。真実と歴史に支えられた仏教(浄土真宗)の普遍性。この二者を通して見えてくる、これからの新たな仏教ライフ。

2020年3月刊/212頁/本願寺出版社/1200円

■『生粋のイングランド人』

福本 幸之(文学部教授)共訳

『ロビンソン・クルーソー』の作者ダニエル・デフォーによる風刺詩。国王ウィリアム3世の出自を弁護しつつ、同時代の政治状況が活写される。

2020年3月/190頁/音羽書房鶴見書店/3800円

■『はじめての民事手続法』

堀 清史(法学部准教授)共著

民事に関する手続法の全体をわかりやすく具体的に概観した入門書。民事訴訟法はもちろん、民事保全法、民事執行法や倒産法も簡潔に解説。

2020年4月刊/318頁/有斐閣/2300円

■『教職課程事務入門3～経過措置、単位の読み替え、単位の流用・使用等の学力に関する証明書の作成に関わる実務を理解する』

小野 勝士(事務職員)共著

大学教職員向けの教職課程事務に関する解説書。2019年4月施行の教育職員免許法及び同法施行規則の改正に対応した最新の解説書。

2020年4月刊/232頁/ジグアイ社/2700円

■『ビジネスデータの分析リテラシーと活用—Excelによる実用データサイエンス入門—』

寺島 和夫(経営学部教授)編著

データサイエンスへのニーズの高まりに応えるため、文系の学生を対象にビジネスデータへの分析プロセス全体を実践的に学修できるようにした。

2020年3月刊/304頁/同文館出版/2900円

■『バーナード・レジンスター『生の肯定 ニーチェによるニヒリズムの克服』』

竹内 綱史(経営学部准教授)翻訳

現代ニーチェ研究の一つの到達点を示す研究書の翻訳。ニーチェ独自の思考の道筋を内面的かつ体系的に記述する試み。

2020年3月刊/558頁/法政大学出版局/5400円

■『ようこそ南アジア世界へ』

舟橋 健太(社会学部講師)共編著

南アジア地域の基礎事柄と最新の研究成果を交えた、13章と14コラムからなる入門書。

2020年4月刊/304頁/昭和堂/2400円

■『中小企業オーナーのための 財産・株式管理と承継の法律実務』

今川 嘉文(法学部教授)著

認知症対策、株式・財産・事業の承継対策、争族対策は、中小企業が高齢化社会で生き残るための最重要案件。具体的事案につき妥当な解決策を示す。

2020年3月刊/344頁/弘文堂/3000円

龍谷 2020 No. 90

Ryukoku Magazine 90 September 2020

広報誌『龍谷』のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、各号に綴じ込まれているハガキ、または以下のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。



広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ
<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>

下記から過去の広報誌(デジタル版)が
ご覧いただけます



2019年No.88 2020年No.89



Digital Library

<https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>

広報誌『龍谷』90号(デジタル版)

プレゼント応募・読者アンケートフォーム

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。なお、アンケートにご回答いただいた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。



<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>

広報誌『龍谷』からプレゼント

龍谷ミュージアムオリジナルエコバック・付箋……5名様(2つセット)
アカイノロシドリップバッグ[チャーリー深煎り]……5名様(3つセット)



龍谷大学卒業生が運営する「株式会社 アカイノロシ」

アカイノロシは持続可能な流通モデルを構築し、世界中のヒトやモノがその価値を正当に評価され、後世に残っていく社会の実現を目指しています。その第一歩目として「タイ北部の山岳地帯から世界に誇るコーヒー農園を」という目標を掲げ、タイの少数民族アカ族が作るコーヒーを販売しています。

ご希望の方は、読者アンケートフォームにご回答ください。

また、ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部なども)及び広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。ハガキでご応募の場合のあて先は下記「プレゼント」係まで。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。

締め切りは12月11日(金)必着。

応募多数の場合は抽選となります。当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

プレゼント・お便りのあて先

龍谷大学 学長室 (広報)
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話：075 (645) 7882
FAX：075 (645) 8692
E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

読者のひろば

龍谷大学にはたくさんの学部があるので、こちらの冊子から子どもの学ぶ学科以外の様子や内容を知ることができて面白いです。下の子の進路を考える時に、身近な参考になるとと思います。
在学生保護者 Tさん

毎号、読むのを楽しみにしております。私自身、新型コロナウイルスの影響で外出を控えておりますが、家でこの広報誌「龍谷」を読むことが楽しみの一つにもなっております。今後の内容も期待しております。
在学生 Yさん

毎回、興味深く読ませていただいています。様々な人間ドラマを見させてもらい、読むたびにフレッシュな風が吹くような感覚を覚えます。これからも、「龍谷」に携わる「人間」をドラマチックに紹介していただけるのを楽しみにしています。
本学卒業生 Sさん

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また、「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも以下のあて先まで。※いただいた個人情報は広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

【編集委員】

青戸 英夫、安食 真城、井手 健二、石崎 学、
奥田 望、笠藤 ゆかり、金 紅美、齋藤 正治、
塩見 洋一、竹田 純子、谷村 知佐子、
デブナール ミロシュ、中川 千草、能美 潤史、
野口 聡子、畑仲 哲雄、原田 太津男、
平綱 雅彦、本多 滝夫、山口 大、吉岡 祥充、
若林 雅子(50音順)

【事務局】

田中 雅子、山田 美由紀

広報誌「龍谷」90号
2020年9月18日発行

編 集：龍谷大学編集委員会
制 作：龍谷大学学長室 (広報)
発 行：龍谷大学
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話 075 (642) 1111 (代表)

龍谷大学ホームページURL
<https://www.ryukoku.ac.jp>



公式 facebook 「龍谷大学」
www.facebook.com/RyukokuUniversity/



公式 YouTube 「龍谷大学」
www.youtube.com/user/RyukokuUniversity



公式 Instagram 「龍谷大学」
www.instagram.com/ryukokuuniversity



公式 Twitter 「龍谷大学広報」
twitter.com/ryukoku_univ_pr



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY